

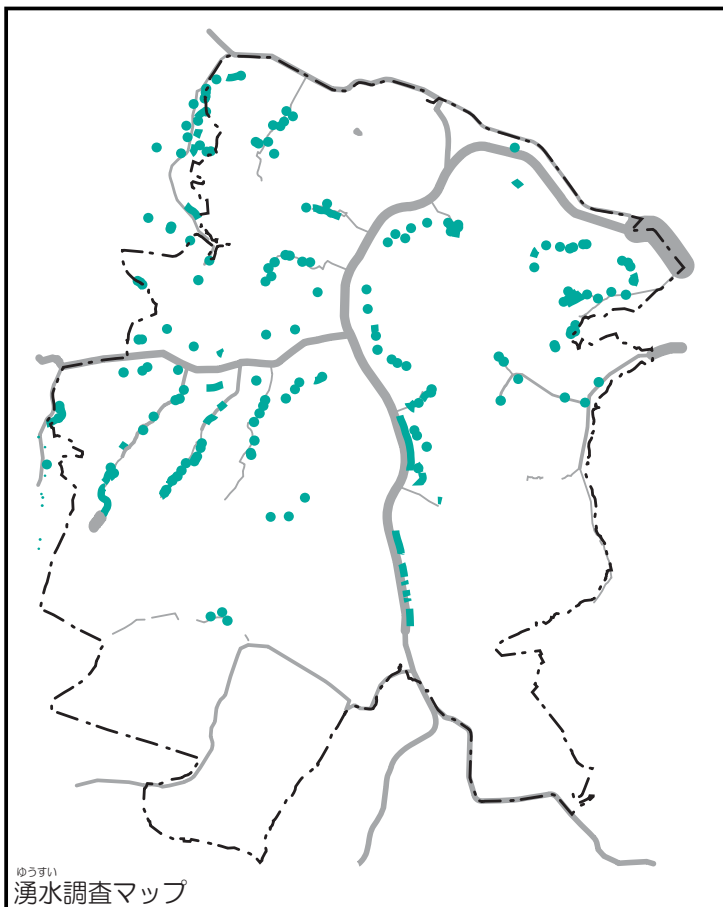
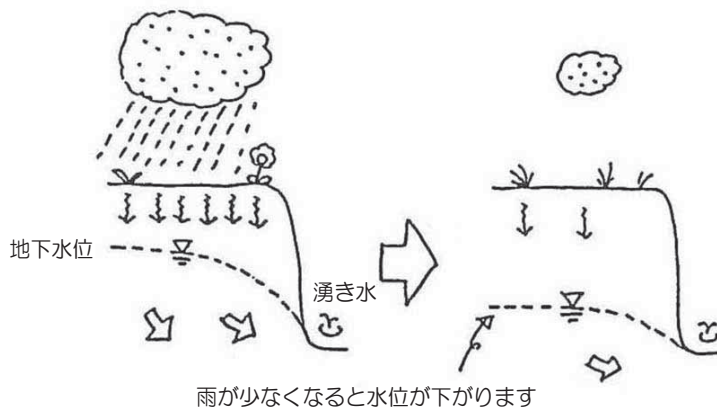


湧き水の湧いている谷津

湧き水 八千代市の地形は、よく見ると台地と谷の組み合わせからできています。谷は谷津と呼ばれ、台地と谷津の境界は斜面や崖になっています。その斜面や崖の下に、雨も降っていないのに水がたまっていたり、地面がぬかるんでいたたりしたら、それは湧き水なのかも知れません。

谷津には必ず水路があります。水路を上流へとどんどんさかのぼって行くと、「谷津頭」と呼ばれる谷の始まりに出会います。谷津頭では、地層の間から湧き出す湧き水が見られる可能性があります。また、谷津頭は湿地であったり、池であったりと、いろいろな水に関わる風景を見ることが出来ます。これも湧き水のひとつです。

湧き水に出会ったら、水に触れてみましょう。湧き水の水温は年間を通して、14～16℃ぐらいで一定です。夏の暑い時だったらとても冷たく、冬の寒い時であれば、温かく感じられるはずです。



きれいで豊かな湧き水は、台地の森や林に守られています。湧き水の周辺の自然が保たれていれば、オニヤンマやサワガニ、ホトケドジョウなど、湧き水を好むたくさんの生きものに私たちは出会うことができるでしょう。

調査報告書より

市民調査員とともに行った調査で、市内には約200地点の湧き水を見つけました。その中にはコンクリート護岸などのような人工物からパイプなどをつたって湧きだすものや、湧き水が以前あったと考えられるものもあります。自然に湧き出しているものは全体のおよそ6割程度にすぎません。しかも、市内の湧き水の多くが北部にかたよっていて、南部ではほとんど見つけることができませんでした。いろいろな環境の改変により、湧き水は出口を失い、すがたを消していったと思われます。